

平等院の起源

平等院は、現存する 11 世紀の仏教建築の最も重要な例です。精巧な職人技の産物であるだけでなく、その設計と施工は何世紀にもわたって仏教建築に影響を与えました。

平等院は別荘として始まりました。平安時代（794 - 1184）の貴族は、時の都である京都から逃れるために、宇治川沿いに同様の建物を多く建てました。藤原道長（966～1028）が建立した別荘を、息子の藤原頼通（992 - 1074）が継承しました。頼通は浄土仏教の崇拝者であり、1052 年に別荘を阿弥陀、西方極楽浄土の仏陀、浄土仏教の主神に捧げる寺院群に作り変えました。彼は翌年、寺院の目玉である鳳凰堂を注文しました。

頼道は、鳳凰堂を地上における阿弥陀仏の西方極楽浄土とすることを意図していました。彼は、阿弥陀仏の住居のイメージで寺院を建てることで、浄土仏教の崇拝者にとっての目標である、阿弥陀の存在により再生を達成することに役立つと考えました。浄土信仰の教義では、世界は混沌に陥ることになり、頼道のような信者はその混沌が始まる前に生まれ変わることを望んでいました。頼道のような信者の阿弥陀への献身は、その時代の仏教芸術の繁栄に貢献しました。

1897 年（明治 30 年）には鳳凰堂が国宝に指定されました。また、1994 年には平等院の複合施設が世界遺産に指定されました。